

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

筆者が調査したタンザニアの行商人が行っていた商取引を、〈市場的な対価の支払い契約〉と〈時間・機会の贈与〉という二つの面から考察した文章。要旨は昨年度と比べてつかみやすかったであろう。設問は昨年度同様、五問であったが、解答を書きにくい設問もあった。設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	小川さやか「時間を与えあう——商業経済と人間経済の連環を築く『負債』をめぐる」(佐久間寛編『負債と信用の人類学—人間経済の現在』2023年、以文社、第1部・第二章)の一節
頻出度合・的中等	入試では稀に出題される著者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約3850字。昨年より約200字増。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	文化論	(一)	記述	標準	傍線部理由説明問題。「理由説明問題」であることに留意し、「行商人たち」が「掛け売りを認めること」がどういう営みなのかを押さえたうえで、それが「商売戦略上の合理性」とつながる理由を考える。
		(二)	記述	やや難	傍線部理由説明問題。傍線部のように「主張する」ではなく「主張できる」理由が問われている点に留意する。
		(三)	記述	難	傍線部内容説明問題。傍線部の「生活全般」の内容がわかりづらいが、「商品支払い」と「贈与交換」の関係から解答の内容を絞り込んでいく。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明問題。傍線部「回収させる」ということがどういうことを意味しているのかを考える。その際、「この余韻」が「ステップになる」という表現に留意する。
		(五)	記述	標準	例年どおり、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。答案に書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・理科) 2/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『讃岐典侍日記』(藤原長子)
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所も近年他大学で出題されている。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 約1080字。昨年より約180字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	日記	(一)			現代語訳。 現代語訳。 現代語訳。 内容説明(「いつしかといひ顔に」を具体的に説明する)。 内容説明(言葉を補って説明する)。 理由説明(傍線部の直前の内容に注目する)。 和歌の説明(大意を説明する)。
		ア	記述	やや易	
		ウ	記述	易	
		オ	記述	標準	
		(二)	記述	やや難	
第二問 (理科)	日記	(三)	記述	やや難	
		(四)	記述	標準	
		(五)	記述	標準	
		(一)			
		ア	記述	やや易	
ウ	記述	易			
エ	記述	標準			
(二)	記述	やや難			
(三)	記述	標準			

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。解答を簡潔にまとめる練習も必要。また、和歌の学習もしておくこと。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・理科) 3/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年どおり文理共通問題であり、今年度は随筆が出題された。設問数については昨年度同様に枝問を含めて文科6題、理科5題であった。また設問に関わる部分での送り仮名の省略は昨年度は4箇所だったが今年度はなかった。今年度は現代語訳の設問は大問にはなかった。例年どおり、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	方東樹『書林揚鱗』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 214字。昨年は173字 (昨年より41字増)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	随筆	(一)			
		b	記述	標準	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		d	記述	やや易	現代語訳。「毫末之損」との対比に着目する。
		e	記述	易	現代語訳。「偏」の意味を捉える。
第三問 (理科)	随筆	(二)	記述	標準	内容説明。「不得已」に注意しながら傍線部の内容を的確に捉える。
		(三)	記述	標準	内容説明。「無可疑、無可厭」とあることに注意する。
		(四)	記述	標準	内容説明。「斯義也」以降の内容を的確に捉える。
		(一)			
		b	記述	標準	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		c	記述	やや易	現代語訳。「毫末之損」との対比に着目する。
		d	記述	易	現代語訳。「偏」の意味を捉える。
(二)	記述	標準	内容説明。「不得已」に注意しながら傍線部の内容を的確に捉える。		
(三)	記述	標準	内容説明。「斯義也」以降の内容を的確に捉える。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。